

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105685
法人名	医療法人 啓蟄会
事業所名	グループホーム お城下
所在地	愛媛県松山市千舟町4丁目4番地5西田千舟町ビル
自己評価作成日	平成 24年 9 月 29 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年10 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営母体の西田クリニックとの医療連携。自由にして行動制限をしない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

わかりやすい言葉で表された理念を共有し実践につなげている。利用者一人ひとりが気持ちよく過ごせることを常に考えてケアに取り組む姿勢がうかがえる。利用者が思い思いに過ごせるよう床の清掃にも気を配り、利用者の自由な動きを妨げないようにしている。管理者をはじめ職員同士の仲がよく、助け合いながら利用者を支援している。管理者は職員のことをよく理解しており、家庭のことにも配慮し働きやすいようにしている。管理者は職員からも信頼されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名 グループホームお城下

(ユニット名) つる(3階)

記入者(管理者)

氏名 木原 弘美

評価完了日 平成 24 年 9 月 29 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) お城下の理念は易しい言葉で表されているが、その意味をみんなで考え支援の中に具現化するように努力している。また、入居系でありながら在宅系の考え方で支援の継続性について随時話し合いをしている。その他に、その方の状態に応じて在宅へ復帰または他施設へ転院支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 開設時に創設者が考えた理念は、わかりやすい言葉で示されており、共有し実践につなげている。管理者をはじめ職員は、ケアを行う際にも大切にしながら取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の方が何処に居るのか分かり難い。同ビル内1階のコンビニを利用する際に、店員さんと利用者様で交流が取れている。</p> <p>(外部評価) 事業所は繁華街のビルの中にあり近隣は商店が多いため、自治会活動があまりなく、地域住民との付き合いは少ない。職員や利用者は鮮魚店やコンビニを利用することによって、地域とのつながりの手掛かりにしようと努めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 三番町子供神輿にホームに入ってもらい、子ども達、引率の大人の方々にも認知症の人の理解を知ってもらえている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で外部の方より提案があった事を職員で会議を開き検討し合い実現可能なものから実施している。	
			(外部評価) 運営推進会議では事業所の活動報告や課題について意見交換されている。他の事業所からも参加があり貴重な意見を聞くことができている。出された意見はサービスに活かされるよう努めている。	運営推進会議では多方面からの情報を収集することが重要であり、幅広い意見が取り入れられるように参加メンバーを検討することに期待したい。参加者から率直な意見をもらい、サービス向上に具体的に活かしていくことが望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議では毎回、市役所介護保険課から出席をしていただき、評価をしてもらっている。	
			(外部評価) 運営推進会議に市の職員や地域包括支援センター職員が参加しており、利用者の相談で連携を深めている。運営についても報告や相談をして、気軽にできる良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 理解して実践している。 拘束が本人にどんな気持ちにしているか、自分だったらどう思うか話し合っ拘束をしない実践をしている。その人によって、工夫をし畳み部屋を作っている。	
			(外部評価) 利用者に寄り添い見守りながら、身体拘束をしないケアを実践している。言葉による拘束についても職員全員が正しく理解し、適切な対応ができている。玄関の施錠においても夜間以外は出入りが自由にできるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ホーム内で常に話し合いをしている。事例を通じて全員の注意を喚起し実践している。 また、勉強（研修）等を行い少しずつであるが、職員全員で努める様にしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度について話し合い勉強している。 現在1名様利用中である。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時の慌しい時を避けて、事前または入居して落ち着いたから十分に説明している。 また、質問も受けて納得を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご利用者の意見・希望をお聞きできることから、できるだけ早く実践している。できないことも誠実に説明して了解を得る努力をしている。	
			(外部評価) 家族の面会時に意見や要望を聞き取るよう努めている。はっきり希望を言う家族が多く、聞き取りがしやすい。意見や要望は、管理者や職員で話し合い運営に反映されるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 反映している。 業務改善委員会・レクレーション委員会などを設け職員間で話し合いを運営している。また、チーム全体で援助を行っていくという実感が沸く様に努力をしている。 (外部評価) 業務改善委員会があり、運営などについて話し合いがよく行われている。管理者は職員と同じ立場と考えており、職員からも意見が出しやすい。出された意見や要望はよく検討され、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 努めている。 常に勤務との調整を行いながらできるだけ研修を行っている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 進めている。 内部・外部の研修に個々人の能力に応じて受ける機会を確保している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議への参加。また、お招きをしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人の不安を軽減したり溶け込み易い雰囲気づくりを心がけている。ご家庭が認知症を認めたくない気持ちもあり、ご本人の真実を見られない場合も多々あるが、ご家族のプライドに配慮しつつ、少しずつ、ご本人の自然な姿、気持ちを気づいていただく様に配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご利用のはじめに見学をしていただきホームでの雰囲気を感じていただいている。ご家庭を訪問してご本人の普段の姿を知るように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご希望をよく聞き、ホームで受け入れることもできるかできないかを見極め、他のサービスを提案もしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 自立支援の立場から、出来る所はしていただき、話し合いながら作業などを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族との話し合いでできる協力はしていただいている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行っている。ご自由にご本人がご家族に電話をしたり、ご家族と出かけたり、外泊も行っている。面接時間も常識範囲内で自由だから、面会者も非常に多い。	
			(外部評価) 家族との外出や帰宅、法事、知人との電話など、大切にしてきた馴染みの関係が継続できるよう支援に努めている。事業所のあるビルの一階のコンビニに日常的に買い物に行っており、馴染みの関係となっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) お気に入りの人と自由に話をしたりお部屋を訪ねて一緒にテレビを見たり本を貸しあう事もされている。また、散歩介助等組み合わせを考えて楽しく過ごしてもらおう様にして話題作りも支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ご本人やご家族が希望されれば、行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 施設の決め事で生活を括らないで、食の嗜好や生活習慣なそさまざまな点で、ご家族からの話や聞き取りの中で汲み取り、できるだけ自由に窮屈でない生活を個々でしていただいている。 (外部評価) 利用者一人ひとりに向き合って思いや希望を聞き取り、自然な暮らしができるよう支援している。日々のかかわりの中で声をかけて把握に努め、自分からあまり希望を出さない利用者には、関わる時間を多くとって理解するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) できるだけご本人の心情を害さない範囲で普段のお話の中から、生活歴や生活習慣を知り、その人らしい考えや行動など把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送り・連携を取って知った情報をみんなで共有し、ご本人の今の状態をできるだけ正確に把握し援助に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) みんなで月1回モニタリングを行い、今の援助目標でご本人の状態にあった援助ができていないか確認している。また、新しい課題を見つけ目標達成できるように援助している。 (外部評価) 利用者がより良く暮らしていくために家族の意向を聞きながら、担当者を中心に話し合いを行い介護計画が作成されている。毎月モニタリングを行い評価を行っている。管理者は職員と検討し、家族の意向も確認し、介護計画がより良いものになるよう見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 行っている。 経験の浅い職員には例を挙げて記録の仕方や、情報の援助への活かし方を教えている。 特に「気づき」については記録するように勉強会を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 行っている。 マニュアル通りに行うべき事と、その人感性を生かす事と、両方を活かせる努力をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 日課に当てはめない自由な雰囲気支援している。子供会との交流・コンビニへ行く事で交流する。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 普段受診に関しては、協力体制にある西田クリニック を受診していますが、特別にご本人が指定される主治 医があれば御希望通り受診してもらっている。	
			(外部評価) 法人が運営するクリニックが同じビルの二階にあり、 専門医の受診を除き、ほとんどの利用者がかかりつけ 医としている。専門医への受診は家族が通院介助して いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 行っている。 クリニックのナース、介護スタッフとの連携で、ご利用 者様の体調変化について常に情報交換を行い体調管 理に勤めている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 行っている。 ご相談によってご本人とご家族の御希望通り行ってい る。入院などの際は主治医からの情報提供・介護現場 からの情報提供も行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化に対応できるように西田クリニックとの連携で お看取りまでの援助を行っている。入居時や時期に応 じて、主治医・ケアマネ・ご家族と話し合いを行って いる。	
			(外部評価) 終末期には、利用者の状態に応じて医師と家族、職員 で話し合いがされている。利用者や家族の希望に沿う ように事業所全体で支援している。利用者の状況によ り、急変時に備えて管理者が事業所に待機するなどの 対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) すべてではないが行っている。現在はクリニックナース・主治医まで、すばやく連絡が取れる体制を整えている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防講習者2名・消防訓練年2回、常に事故を未然に防ぐ様に注意を払って業務を行っている。また、毎日の申し送りに注意喚起を行っている。さらに、備蓄品に飲料水・食糧を買い、ヘルメット・懐中電灯・軍手を備えて、自主訓練を職員同士で行う様にしている。しかし、立地的に地域との協力体制に苦心している。 (外部評価) 年2回防災訓練を実施している。ビル内に事業所があるため避難が困難であることが想定され、職員は火を出さないことをいつも念頭に置いて行動している。日頃から、利用者の安全確保のため職員全員で防災意識の再確認を行っている。スプリンクラーや避難器具、防災扉が設置されている。	引き続き、初期消火の訓練や防災に対する意識づけを行うよう望みたい。地域住民の協力が得られにくい地域ではあるが、運営推進会議等を通じて協力が得られるよう継続して働きかけることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 話し合いをしたり内部研修を行い、姓名の呼び方や折り目正しい接し方など、常に再確認をするよう努めている。 (外部評価) 利用者のプライドを傷つけないよう声かけに注意している。排泄や入浴時に誇りやプライバシーを損なう事がないよう配慮しながらケアに努めている。排泄については臭気にも配慮するよう心がけている。利用者一人ひとりの人格を尊重する姿勢がうかがえる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様の気持ちを汲み取って意思決定ができるように努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 行っている。 個々人の時計で行動できるように配慮支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行っている。 自分の好きな服。自分の好きな髪形思うように散髪屋さんと話ながら行ってもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 行っている。 自分の嫌いなものは食べなくても代替の食べ物を作っている。また、食器拭き、食事の下ごしらえを職員と楽しんでいただいている。 (外部評価) 給食委員会でメニューを検討し、各ユニット毎に決めている。利用者からのリクエストには、できるだけ取り入れている。誕生日などの行事には特別メニューを考え、利用者が楽しめるよう支援している。準備や片付けなど利用者ができることは職員と一緒にしている。外食等も企画され利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 行っている。 その人の状態に応じて食事の形態を変えている。現在は普通食刻み・ミキサー食。口腔摂取が不可能な方には鼻腔からの栄養も取ってもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ご自分で出来る方はできるところまで、できない方は職員の介助にて行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 行っている。 可能な限りトイレへ行ってもらっている。その方の能力に応じてトイレ誘導・はくパンツ・オムツ対応を行っている。	
			(外部評価) できる限りトイレでの排泄を支援している。残存機能を使って、できる事は自分で行うように声かけしている。おむつ使用の利用者には不快な思いをしないよう、こまめに取り替えるなど配慮している。一人ひとりの排泄パターンにあった排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいる。 リハビリ体操で動けない人も少しでも動けるように工夫している。また、食事メニュー等にも工夫している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴介助を行っている。車椅子レベルの人は2人介助にてできるだけ湯船に浸かってもらっている。また、季節に応じて、入浴剤の工夫もして楽しんでもらっている。	
			(外部評価) 利用者の希望に沿った入浴支援が行われている。ゆず湯にするなど入浴が楽しめる工夫をしている。入浴の苦手な利用者には声かけやタイミングを工夫し、心地よい入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 行っている。 基本的に日課は無く、自由に自分の時間帯で過ごしてもらっている、眠る時間も・場所も強要していない。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 行っている。 症状や状態について常に申し送りし、小まめに確認し主治医に相談して指示をもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 基本的に自由日課なので、ご自分のしたいことをしていただき、外出レクリエーションを自由参加で少人数で行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご家族の協力をいただき、好きなときに行きたいところへ行ってもらっている。 職員とは、近所への買い物介助している。また、定期的な散歩を楽しみにしてもらっており、色々な買い物を楽しみにしてもらっている。 (外部評価) 事業所が繁華街にあるため、日常的にビルの一階のコンビニや近くのデパート、商店街に買い物に行くことが多く、気分転換を兼ねた外出支援をしている。近くにお寺があり利用者は参拝を楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) している。 小口預かり金から出して個人で持ってもらって、ご自分で支払いをしていただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 行っている。 手紙をだしたり、自分で電話をかけたり自由にしていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 掃除の行き届いた清潔な環境づくりに努めている。また、季節季節でのお花などを飾っている。施設全体に明るい感じに努めている。	
			(外部評価) 共用空間は吹き抜けの造りになっており、自然の光が注ぎ込み、壁にはお祭りや外出イベントの写真が飾られている。心地よい香りがするなど、利用者が居心地よく過ごせる工夫や配慮がされている。三階にはテラスがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファや椅子の配置を変えたり、孤立する人の無い様努力している。時に席替えも行う。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご自分の気に入った馴染みの物も配置したり、好きな写真を飾ったりその人なりに、自由に行っている。	
			(外部評価) 居室には、ベッドやエアコン、クローゼットが備え付けとなっている。利用者それぞれの好みに合わせて、防炎加工された暖簾が使用している。使い慣れた物が持ち込まれ家族との写真が飾られており、利用者が自宅のように落ち着いて生活できるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) できる範囲でできることを疲れない程度に行っている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870105685
法人名	医療法人 啓蟄会
事業所名	グループホーム お城下
所在地	愛媛県松山市千舟町4丁目4番地5西田千舟町ビル
自己評価作成日	平成 24年 9 月 29 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 24 年10 月 18 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

経営母体の西田クリニックとの医療連携。自由にして行動制限をしない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

わかりやすい言葉で表された理念を共有し実践につなげている。利用者一人ひとりが気持ちよく過ごせることを常に考えてケアに取り組む姿勢がうかがえる。利用者が思い思いに過ごせるよう床の清掃にも気を配り、利用者の自由な動きを妨げないようにしている。管理者をはじめ職員同士の仲がよく、助け合いながら利用者を支援している。管理者は職員のことをよく理解しており、家庭のことにも配慮し働きやすいようにしている。管理者は職員からも信頼されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー
“愛媛県地域密着型サービス評価”

事業所名 グループホームお城下

(ユニット名) かめ(4階)

記入者(管理者)

氏名 福島真理

評価完了日 平成 24 年 9 月 29 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) お城下の理念は易しい言葉で表されているが、その意味をみんなで考え支援の中に具現化するように努力している。また、入居系でありながら在宅系の考え方で支援の継続性について随時話し合いをしている。その他に、その方の状態に応じて在宅へ復帰または他施設へ転院支援を行っている。</p> <p>(外部評価) 開設時に創設者が考えた理念は、わかりやすい言葉で示されており、共有し実践につなげている。管理者をはじめ職員は、ケアを行う際にも大切にしながら取り組んでいる。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の方が何処に居るのか分かり難い。同ビル内1階のコンビニを利用する際に、店員さんと利用者様で交流が取れている。</p> <p>(外部評価) 事業所は繁華街のビルの中にあり近隣は商店が多いため、自治会活動があまりなく、地域住民との付き合いは少ない。職員や利用者は鮮魚店やコンビニを利用することによって、地域とのつながりの手掛かりにしようと努めている。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 三番町子供神輿にホームに入ってもらい、子ども達、引率の大人の方々にも認知症の人の理解をしてもらえるよう努めている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議で外部の方より提案があった事を職員で会議を開き検討し合い実現可能なものから実施している。	
			(外部評価) 運営推進会議では事業所の活動報告や課題について意見交換されている。他の事業所からも参加があり貴重な意見を聞くことができている。出された意見はサービスに活かされるよう努めている。	運営推進会議では多方面からの情報を収集することが重要であり、幅広い意見が取り入れられるように参加メンバーを検討することに期待したい。参加者から率直な意見をもらい、サービス向上に具体的に活かしていくことが望まれる。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議では毎回、市役所介護保険課から出席をしていただき、評価をしてもらっている。	
			(外部評価) 運営推進会議に市の職員や地域包括支援センター職員が参加しており、利用者の相談で連携を深めている。運営についても報告や相談をして、気軽にできる良好な関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 理解して実践している。 拘束が本人にどんな気持ちにしているか、自分だったらどう思うか話し合っ拘束をしない実践をしている。その人によって、工夫をし畳み部屋を作っている。	
			(外部評価) 利用者に寄り添い見守りながら、身体拘束をしないケアを実践している。言葉による拘束についても職員全員が正しく理解し、適切な対応ができている。玄関の施錠においても夜間以外は出入りが自由にできるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) ホーム内で常に話し合いをしている。事例を通じて全員の注意を喚起し実践している。 また、勉強（研修）等を行い見逃さない意識付けを行って、全員で努める様にしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度について話し合い勉強している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居時の慌しい時を避けて、事前または入居して落ち着いたから十分に説明している。 また、質問も受けて納得を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) ご利用者の意見・希望をお聞きできることから、できるだけ早く実践している。できないことも誠実に説明して了解を得る努力をしている。	
			(外部評価) 家族の面会時に意見や要望を聞き取るよう努めている。はっきり希望を言う家族が多く、聞き取りがしやすい。意見や要望は、管理者や職員で話し合い運営に反映されるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 反映している。 業務改善委員会・レクレーション委員会などを設け職員間で話し合いを運営している。また、チーム全体で援助を行っていくという実感が湧く様に努力をしている。 (外部評価) 業務改善委員会があり、運営などについて話し合いがよく行われている。管理者は職員と同じ立場と考えており、職員からも意見が出しやすい。出された意見や要望はよく検討され、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 努めている。 常に勤務との調整を行いながらできるだけ研修を行っている。また勤務時間の少ない人も採用して子どもさんの小さい人も働きやすくしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 進めている。 内部・外部の研修に個人個人の能力に応じて受ける機会を確保している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 運営推進会議への参加。また、お招きをしている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人の不安を軽減したり溶け込み易い雰囲気づくりを心がけている。ご家庭が認知症を認めたくない気持ちもあり、ご本人の真実を見られない場合も多々あるが、ご家族のプライドに配慮しつつ、少しずつ、ご本人の自然な姿、気持ちを気づいていただく様に配慮している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご利用のはじめに見学をしていただきホームでの雰囲気を感じていただいている。ご家庭を訪問してご本人の普段の姿を知るように努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご希望をよく聞き、ホームで受け入れることもできるかできないかを見極め、他のサービスを提案もしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 自立支援の立場から、出来る所はしていただき、話し合いながら作業などを行っている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族との話し合いでできる協力はしていただいている。また面会に来られる時間も常識範囲内で自由にしてもらっている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 行っている。ご自由にご本人がご家族に電話をしたり、ご家族と出かけたり、外泊も行っている。面接時間も常識範囲内で自由だから、面会者も非常に多い。 (外部評価) 家族との外出や帰宅、法事、知人との電話など、大切にしてきた馴染みの関係が継続できるよう支援に努めている。事業所のあるビルの一階のコンビニに日常的に買い物に行っており、馴染みの関係となっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) お気に入りの人と自由に話をしたりお部屋を訪ねて一緒にテレビを見たり本を貸しあう事もされている。また、散歩介助等組み合わせを考えて楽しく過ごしてもらう様にして話題作りも支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) ご本人やご家族が希望されれば、行っている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 施設の決め事で生活を括らないで、食の嗜好や生活習慣なそさまざまな点で、ご家族からの話や聞き取りの中で汲み取り、できるだけ自由に窮屈でない生活を個々でしていただいている。 (外部評価) 利用者一人ひとりに向き合って思いや希望を聞き取り、自然な暮らしができるよう支援している。日々のかかわりの中で声をかけて把握に努め、自分からあまり希望を出さない利用者には、関わる時間を多くとって理解するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) できるだけご本人の心情を害さない範囲で普段のお話の中から、生活歴や生活習慣を知り、その人らしい考えや行動など把握に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 申し送り・連携を取って知った情報をみんなで共有し、ご本人の今の状態をできるだけ正確に把握し援助に反映している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) みんなで月1回モニタリングを行い、今の援助目標でご本人の状態にあった援助ができていないか確認している。また、新しい課題を見つけ目標達成できるように援助している。 (外部評価) 利用者がより良く暮らしていくために家族の意向を聞きながら、担当者を中心に話し合いを行い介護計画が作成されている。毎月モニタリングを行い評価を行っている。管理者は職員と検討し、家族の意向も確認し、介護計画がより良いものになるよう見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 行っている。 経験の浅い職員には例を挙げて記録の仕方や、情報の援助への活かし方を教えている。特に「気づき」については記録するように勉強会を行っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 行っている。 マニュアル通りに行うべき事と、その人感性を生かす事と、両方を活かせる努力をしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 日課に当てはめない自由な雰囲気ですべて支援している。子供会との交流・コンビニへ行く事で交流する。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 普段受診に関しては、協力体制にある西田クリニック を受診していますが、特別にご本人が指定される主治 医があれば御希望通り受診してもらっている。	
			(外部評価) 法人が運営するクリニックが同じビルの二階にあり、 専門医の受診を除き、ほとんどの利用者がかかりつけ 医としている。専門医への受診は家族が通院介助して いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 行っている。 クリニックのナース、介護スタッフとの連携で、ご利用 者様の体調変化について常に情報交換を行い体調管 理に勤めている。医療連携日誌をナースに記録して もらっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 行っている。 ご相談によってご本人とご家族の御希望通り行ってい る。入院などの際は主治医からの情報提供・介護現場 からの情報提供も行っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 重度化に対応できるように西田クリニックとの連携で お看取りまでの援助を行っている。入居時や時期に応 じて、主治医・ケアマネ・ご家族と話し合いを行って いる。	
			(外部評価) 終末期には、利用者の状態に応じて医師と家族、職員 で話し合いがされている。利用者や家族の希望に沿 うように事業所全体で支援している。利用者の状況によ り、急変時に備えて管理者が事業所に待機するなどの 対応をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) すべてではないが行っている。現在はクリニックナース・主治医まで、すばやく連絡が取れる体制を整えている。早く気づき医療につなげる連携を取っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防講習者2名・消防訓練年2回、常に事故を未然に防ぐ様に注意を払って業務を行っている。また、毎日の申し送りに注意喚起を行っている。さらに、備蓄品に飲料水・食糧を買い、ヘルメット・懐中電灯・軍手を備えて、自主訓練を職員同士で行う様にしている。しかし、立地的に地域との協力体制に苦心している。 (外部評価) 年2回防災訓練を実施している。ビル内に事業所があるため避難が困難であることが想定され、職員は火を出さないことをいつも念頭に置いて行動している。日頃から、利用者の安全確保のため職員全員で防災意識の再確認を行っている。スプリンクラーや避難器具、防災扉が設置されている。	引き続き、初期消火の訓練や防災に対する意識づけを行うよう望みたい。地域住民の協力が得られにくい地域ではあるが、運営推進会議等を通じて協力が得られるよう継続して働きかけることを期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 話し合いをしたり内部研修を行い、姓名の呼び方や折り目正しい接し方など、常に再確認をするよう努めている。 (外部評価) 利用者のプライドを傷つけないよう声かけに注意している。排泄や入浴時に誇りやプライバシーを損なう事がないよう配慮しながらケアに努めている。排泄については臭気にも配慮するよう心がけている。利用者一人ひとりの人格を尊重する姿勢がうかがえる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者様の気持ちを汲み取って意思決定ができるように努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 行っている。 個々人の時計で行動できるように配慮支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 行っている。 自分の好きな服。自分の好きな髪形思うように散髪屋さんと話ながら行ってもらっている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 行っている。 自分の嫌いなものは食べなくても代替の食べ物を作っている。また、食器拭き、食事の下ごしらえを職員と楽しんでいただいている。 (外部評価) 給食委員会でメニューを検討し、各ユニット毎に決めている。利用者からのリクエストには、できるだけ取り入れている。誕生日会などの行事には特別メニューを考え、利用者が楽しめるよう支援している。準備や片付けなど利用者ができることは職員と一緒にしている。外食等も企画され利用者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 行っている。 その人の状態に応じて食事の形態を変えている。現在は普通食刻み・ミキサー食。口腔摂取が不可能な方には鼻腔からの栄養も取ってもらっている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ご自分で出来る方はできるところまで、できない方は職員の介助にて行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 行っている。 可能な限りトイレへ行ってもらっている。その方の能力に応じてトイレ誘導・はくパンツ・オムツ対応を行っている。	
			(外部評価) できる限りトイレでの排泄を支援している。残存機能を使って、できる事は自分で行うように声かけしている。おむつ使用の利用者には不快な思いをしないよう、こまめに取り替えるなど配慮している。一人ひとりの排泄パターンにあった排泄支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 取り組んでいる。 リハビリ体操で動けない人も少しでも動けるように工夫している。また、食事メニュー等にも工夫している。	
			(外部評価)	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 毎日入浴介助を行っている。車椅子レベルの人は2人介助にてできるだけ湯船に浸かってもらっている。また、季節に応じて、入浴剤の工夫もして楽しんでいただいている。	
			(外部評価) 利用者の希望に沿った入浴支援が行われている。ゆず湯にするなど入浴が楽しめる工夫をしている。入浴の苦手な利用者には声かけやタイミングを工夫し、心地よい入浴ができるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 行っている。 基本的に日課は無く、自由に自分の時間帯で過ごしてもらっている、眠る時間も・場所も強要していない。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 行っている。 症状や状態について常に申し送りし、小まめに確認し主治医に相談して指示をもらっている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 基本的に自由日課なので、ご自分のしたいことをしていただき、外出レクリエーションを自由参加で少人数で行っている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご家族の協力をいただき、好きなときに行きたいところへ行ってもらっている。 職員とは、近所への買い物介助している。また、定期的な散歩を楽しみにしてもらっており、色々な買い物を楽しみにしてもらっている。 (外部評価) 事業所が繁華街にあるため、日常的にビルの一階のコンビニや近くのデパート、商店街に買い物に行くことが多く、気分転換を兼ねた外出支援をしている。近くにお寺があり利用者は参拝を楽しみにしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) している。 小口預かり金から出して個人で持ってもらって、ご自分で支払いをしていただいている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 行っている。 手紙をだしたり、自分で電話をかけたり自由にしていただいている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 掃除の行き届いた清潔な環境づくりに努めている。また、季節季節でのお花などを飾っている。施設全体に明るい感じに努めている。	
			(外部評価) 共用空間は吹き抜けの造りになっており、自然の光が注ぎ込み、壁にはお祭りや外出イベントの写真が飾られている。心地よい香りがするなど、利用者が居心地よく過ごせる工夫や配慮がされている。三階にはテラスがある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) ソファや椅子の配置を変えたり、孤立する人の無い様努力している。時に席替えも行う。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) ご自分の気に入った馴染みの物も配置したり、好きな写真を飾ったりその人なりに、自由に行っている。	
			(外部評価) 居室には、ベッドやエアコン、クローゼットが備え付けとなっている。利用者それぞれの好みに合わせて、防炎加工された暖簾が使用している。使い慣れた物が持ち込まれ家族との写真が飾られており、利用者が自宅のように落ち着いて生活できるよう配慮されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) できる範囲でできることを疲れない程度に行っている。	